

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ 「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ	8
➤ JRRN 会員募集中	10

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー「小さな自然再生」現地研修会開催地を募集中！

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受けて、水辺で予定されていたイベントが中止や延期となり、これまでの川づくり活動が思うように進まず皆様ご苦労されていることと思います。

JRRN では、この感染拡大状況が必ず収まることを信じ、今年度も 3 回程度の「小さな自然再生」現地研修会の開催を予定しており、フィールド活動ができない今からこそ開催に向けた準備を丁寧に進めていきたいと考えております。

2015 年よりスタートしたこの研修会は、昨年度まで計 11 回開催し、特に昨年度はコロナ禍ではありましたが、開催規模を縮小し、感染防止対策を徹底することで、座学と屋外フィールドワークによる 3 回の現地研修会を無事に開催できました。

今年度は、現地研修会の開催地を皆様から広く募集し、ご応募いただいた現場の特徴、河川管理者等との連携状況、地元の川づくりの担い手の実施体制等について事前にご相談させて頂き、最終的に 3 カ所の開催地を絞り込んでいきたいと思っております。なお、結果的に今年度は開催できなくても、来年度以降の開催候補地として、今回の応募をご縁に技術交流させて頂き、小さな自然再生の実践に向けた可能なサポートをさせて頂ければ幸いです。

今年度の開催地募集の詳細は、次ページ以降の案内チラシをご覧ください。合わせて、過去 11 回の開催地と開催テーマも紹介しております。

なお、この小さな自然再生普及促進に向けた取組は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けるとともに、全国で小さな自然再生の取組に尽力されている「小さな自然再生」研究会の専門家チームのご協力を頂きながら実施しております。

(JRRN 事務局・和田彰)

【応募条件】

水辺の小さな自然再生に関わる取組みを既に実践している、またはこれから取組もうと考えている現場をお持ちの川づくりの担い手の方々（市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.）

【“応募者”と“JRRN”の主な役割分担】

- ◇応募者：現場作業に向けた地元調整（管理者等との事前調整、資材調達、地元広報 等）
- ◇JRRN：専門家調整（旅費・謝金等の費用負担含む）、座学会場手配（会場費含む）、地元外広報、研修会進行、研修会成果とりまとめ 等

【応募期間 及び 今後のスケジュール】

- ◇応募期間：7月26日（月）～8月17日（火）
 - ◇今後のスケジュール：
 - ・～8/17（火）：開催を希望する現場の公募
 - ・～8月末：開催候補地の調整→開催地決定（3回）
 - ・9月～：企画調整開始
 - ・9月～11月：現地研修会の開催（3回）
- ※但し、新型コロナウイルス感染拡大状況により上記スケジュールが変更となる場合があります。

【応募方法】

氏名、所属、連絡先（住所・電話・e-mail）とともに JRRN 事務局（info@a-rr.net）までご応募下さい。

2021年度 水辺の「小さな自然再生」現地研修会

開催を希望する “現場” を募集します

(2021年8月17日(火) 応募〆切)



2021年7月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

様々な主体と協働しながら、多種多様な生きものが生育・生息できる環境づくりに取り組む仲間を増やし育成することを目的に、今年度も「小さな自然再生」現地研修会（3回程度）を開催します。（参考：裏面にこれまでの開催実績を紹介しています）

開催地の現場に関わる川づくりの担い手の方々、研修会の一般参加者、そして「小さな自然再生」研究会の専門家とともに、身近な水辺でできる小さな自然再生の見直しを通じて、技術やノウハウ、工夫等々を一緒に学ばせて頂くフィールドはありませんか？

下記募集要項をご確認の上、ご興味のある方はご応募、ご相談をお待ちしております。

【応募条件】

水辺の小さな自然再生に関わる取組みを既に実践している、またはこれから取組もうと考えている現場をお持ちの川づくりの担い手の方々（市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.）

【“応募者”と“JRRN”の主な役割分担】

- ◇応募者：現場作業に向けた地元調整（管理者等との事前調整、資材調達、地元広報 等）
- ◇JRRN：専門家調整（旅費・謝金等の費用負担含む）、座学会場手配（会場費含む）、地元外広報、研修会進行、研修会成果とりまとめ 等

※研修プログラムは応募者のご要望を踏まえ JRRN や研究会専門家と一緒に考えます。

【応募期間 及び 今後のスケジュール】

- ◇応募期間： 2021年7月26日(月)～8月17日(火)
- ◇今後のスケジュール： ※新型コロナウイルス感染拡大状況により変更の場合があります
 - ・～8/17(火)： 開催を希望する現場の公募
 - ・～8月末： 開催候補地の調整 → 開催地決定（3回）
 - ・9月～： 企画調整開始
 - ・9月～11月： 現地研修会の開催（3回）

【応募方法】

氏名、所属、連絡先（住所・電話・e-mail）とともに下記申込先まで Eメールにてご応募下さい。

【応募申込み・お問い合わせ】 E-mail: info@a-rr.net

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 担当： 和田彰・澤田みづ子

〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7F（公財）リバーフロント研究所内

Tel: 03-6228-3863 E-mail: info@a-rr.net Website: <http://www.a-rr.net/jp/>



Collaborative Nature Restoration
「小さな自然再生」研究会



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

「小さな自然再生」現地研修会の開催実績

2015年度よりスタートした「小さな自然再生」現地研修会は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成をいただきながら、2020年度までの6年間で計11回開催しております。

回	開催日・開催場所	(上段) 共催 / (下段) テーマ
1	2015年9月8日 愛知県豊田市・岩本川	豊田市矢作川研究所
		岩本川でできる小さな自然再生を考える
2	2015年12月17日 滋賀県長浜市・高時川	滋賀県
		瀬切れ時の水棲生物の避難場所を創出するための川づくり
3	2016年7月29日 福岡県福津市・上西郷川	上西郷川日本一の郷川をめざす会
		間伐材水製の施工実習
4	2016年10月28日 兵庫県宝塚市・武庫川	兵庫県県土整備部土木局武庫川総合治水室
		魚類の生息・遡上環境の改善～ウナギ石組や落差工対策
5	2016年12月8日 千葉県白井市・神崎川	神崎川を守るしろい八幡溜の会、白井市
		西白井・神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？
6	2017年10月17日 福井県福井市・日野川/志津川	国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所、福井県
		魚類の遡上環境の改善 ～九頭竜川流域の連続性確保に向けて～
7	2017年12月6-7日 岡山県西粟倉村・吉井川流域	エーゼロ株式会社、応用生態工学会（大阪地区会、岡山地区会）
		吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何かできるか？
8	2018年2月27日 秋田県大仙市・斉内川	秋田県建設部河川砂防課
		道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出
9	2020年11月13日 愛知県名古屋市中区・矢田川	愛知県建設局河川砂防課、矢田・庄内川をきれいにする会
		事前モニタリングで学ぶ土砂移動（河道内地形）
10	2020年11月24日 秋田県大仙市・斉内川	（公社）全国土木コンクリートブロック協会東北地区協議会秋田県支部
		多自然をモニタリングする
11	2020年11月28日 京都府美山町・美山川	NPO 法人芦生自然学校
		森と川のつながりを考える



第1回(2015.9)@愛知



第2回(2015.11)@滋賀



第3回(2016.7)@福岡



第4回(2016.10)@兵庫



第5回(2016.12)@千葉



第6回(2017.10)@福井



第7回(2017.12)@岡山



第8回(2018.2)@秋田



第9回(2020.11)@愛知



第10回(2020.11)@秋田



第11回(2020.11)@京都



JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

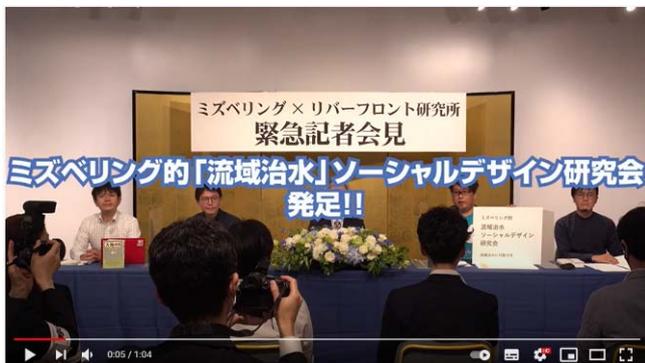
ミズベリング的「流域治水」ソーシャルデザイン研究会の取り組み

リバーフロント研究所では、今年度からミズベリングプロジェクトと共同で、ミズベリング的「流域治水」ソーシャルデザイン研究会を発足し、そこで得られる成果を提言書にまとめようという取り組みを開始しましたので、その内容についてご紹介します。

■ミズベリング的「流域治水」ソーシャルデザイン研究会とは

7月の熱海での土砂災害も記憶に新しいですが、近年、日本では全国各地で毎年のように水災害が発生し、社会への甚大な被害が生じています。そのような状況をふまえ、国土交通省では、流域のあらゆる関係者と連携して取り組む「流域治水」の考え方を令和2年に提唱しました。流域治水を進めるには、流域の様々なステークホルダーに認識してもらい協働を進める必要がありますが、普段河川や治水に縁のない方に、自分ごととして認識していただくのはなかなか難しい課題でもあります。しかし、ミズベリング的手法（クリエイティブに、みんなでつながって、ユニークに、自由に、おもしろく議論）で「流域治水」について語り合うことで、そのような状況の突破口になるのではないか、という可能性を感じ、専門性や立場の壁を超えて流域治水を自分ごとにするためのヒントを探すワークショップ形式の対話を行う場として、ミズベリング的「流域治水」ソーシャルデザイン研究会を立ち上げることになりました。（ミズベリング的「流域治水」ソーシャルデザイン研究会がスタートします！：<https://mizbering.jp/archives/27609>）

取り組み開始にあたっては、両者による緊急記者会見を開きました。私たちの意気込みが伝わるかと思えます（笑）。



ミズベリング的流域治水ソーシャルデザイン研究会緊急記者会見 (<https://www.youtube.com/watch?v=1eZA27OTHQY>)

■研究会のポイント

以下に、研究会のポイントを示します。

寄稿者：阿部充（リバーフロント研究所・JRRN 事務局）

- ・ 専門家、有識者にご参集いただきブレインストーミングする機会
- ・ ミズベリング的手法を下敷きにして流域治水の越境領域について話をする機会
- ・ 流域治水についてのインプットの機会
- ・ 流域治水に取り組む各地の取り組みの事例を共有する機会
- ・ 各参加者の専門領域における流域治水の越境方法を考えてもらう場
- ・ 対話の場、対話手法の有効性を検証

■研究会のメンバー

研究会は、4名の企画委員と14名の研究会委員によって構成されます。企画委員は図1の通りです。



図1 企画委員

研究会委員は、土木、産業、景観デザイン、EBPM、生態系、住民参加まちづくり、建築デザイン、水上アクティビティ、ファイナンス、ミズベリング、教育、まちづくり、ソーシャルデザイン、グリーンインフラ、地下水、治山、デザイン、河川計画、多自然川づくり、都市計画、不動産、気象予測といった様々なバックグラウンドを持つ14名です（図2）。



図2 研究会委員

■第1回研究会

2021年6月30日、様々な領域で活躍している皆さんを委員に迎え、第1回目の研究会がオンライン開催されました。



研究会の状況

まず、自己紹介の後に、「ミズベリング的方法とは？」と題して、これまでのミズベリングの活動紹介を行うとともに、ミズベリング的とはどういうことかというプレゼンテーションが行われました。その後、企画委員の瀧瀬教授より流域治水に関する国の取組みの紹介がなされ、いよいよメインイベントのワークショップです。

ワークショップは2つのテーマで数人ずつ4つのグループにわかれて行われました。1つ目のテーマは「流域治水世間話～流域治水と聞いて思いついたことをなんでも話してみよう～」、2つ目のテーマは「これって流域治水？～どんな流域治水的な取り組みが考えられる？～」ということで、異なる分野同士で議論が繰り広げられました。ワークショップでの議論を皆で共有し、結果についてグラフィックレコーディングとしてまとめられました。

(当日の詳細レポートはこちらから：<https://mizbering.jp/archives/27663>)

リバーフロント研究所及びミズベリングプロジェクト事務局では、今後も本プロジェクトをはじめ、河川や水辺に関する様々な情報を発信していきます。皆様も是非フォローしていただけますと幸いです。

■リバーフロント研究所

ホームページ：<http://www.rfc.or.jp/>

Twitter：https://twitter.com/RFC_JAPAN

■ミズベリングプロジェクト

ホームページ：<https://mizbering.jp/>

Facebook：<https://www.facebook.com/mizbering>



グラフィックレコーディング

8月



<https://www.homemate-research-tour.com/> より引用



あの日のあの川 リレー日記 ～第57話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第57話主人公 早川由里子

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：東京都多摩川)

「川沿いでサイクリング」

いつのこと？：中学生

どこの川？：岐阜県荒城川

皆さまこんにちは。鎌田くんよりバトンを受け取りました、筑波大学白川研究室の早川由里子です。私は幼少期、屋外で遊ぶのが大好きでした。もちろん、今でも好きです。そのため川での思い出はたくさんありますが、今回は岐阜県の荒城川での思い出を書きたいと思います。よろしくお願いします。

毎年夏休みは、家族で岐阜県にある祖母の家に遊びに行きます。小学生のころ、祖母の家では、よく妹と2人でカエルを追いかけたり、サイクリングをしたりしました。今となってはもう、カエルは触れませんが、当時は田んぼや用水路で虫取り網を構え、カエルを捕まえていました。そして、捕まえたカエルを一か所に集めて喜んでいました。サイクリングに行く時は、地図を見ずに覚えられたところまで行って帰ってくる、というのが2人のルールです。初めは全てが知らない道なので、気分は冒険家です。全く知らな

い道に地図なしで行く機会もあまりなかったため、全てが新鮮で楽しかったのを覚えています。この他にも、自転車でフィギュアスケートの演技を真似して遊ぶなど、とにかく屋外にいたため、夏休み明けは真っ黒に日焼けして登校するという典型的な幼少期を過ごしました。

そんなある日、私は中学生、妹は小学生だったと思います。私と妹はサイクリングで荒城川を上流に沿って遡ってみることにしました。連絡手段もない状態で、川をたよりに知らないぼこぼこ道を進みます。自転車版インディ・ジョーンズです。川沿いの大きな神社に立ち寄り涼んだり、田んぼの中に広がる大きなソーラーパネルに驚いたり、土砂が崩れの起きた山を見て地球の壮大さを感じたり、と知らない土地を存分に楽しみました。川沿いの風はとても涼しく、木陰もあるので、絶好のサイクリングコースでした。川沿いでサイクリングは、こんなにも気持ちが良いものなのかと思いました。

豊かな自然の中を進むと、景色はどんどん変わっていきます。スタートした場所は比較的川幅も広く、階段を下りると水に触れます。しかし、上流に行くにつれて、川幅は細くなり、岩もごつごつしてきます。川がきれいだったのに、近寄れず水を触ることができなくて、とても残念だったのを覚えています。道中には牛小屋もあり、黒毛和牛が寝ていました。川沿いの陰でのんびり休めて、気持ち良いだろうな、と思いました。上流の方に進むにつれて、道は険しくなり、ついに崖沿いを通る道にたどりつきました。崖沿いの道は、ガードレールしかついておらず、もし自転車で転んだら、と考えると、とても怖かったです。今思い返しても、ヒヤヒヤします。

ずっと川沿いを進んできたので、道に迷うことは心配していませんでした。しかし、思わぬことで気がめいりました。トビです。上空の近い場所をトビが旋回していました。2人でトビを眺めていると、トビがこちらに襲い掛かってきたのです。お菓子を持っていたわけでもないのに、トビに急に襲われて、とても驚きました。周りに人がいなかったため、どうしようかと思いました。負けた、やられた、と思いました。すると運のよいことに、家を出てから2〜3時間たっていたため、母親が心配して車で迎えに来てくれました。車が来たのでトビは逃げていき、2人ともケガはありませんでした。結局同じ川沿いの道を車に乗って帰りました。

以上が荒城川の思い出です。この経験から、自分の無力さと、川沿いの気持ち良さを知りました。今は便利な世の中なので、家から一歩も出ずに生活できます。しかし、たまには自然豊かな場に行き遊んでみると、新しい発見があるかもしれません。最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

(次は池田望さんにバトンを託します)

「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ *Nature-oriented River Management Support Center*

※『多自然川づくりサポートセンター』は、多自然川づくりについての技術的な支援、市民との連携の強化、気軽な相談窓口、情報の共有等を担い、(公財)リバーフロント研究所が事務局を務めています。2019年度より、JRRNは多自然川づくりサポートセンターと連携して川づくりの推進に取り組んでおります。

「大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～」 第2回ウェブセミナーを開催します！

多自然川づくりサポートセンター事務局

■第2回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー

令和3年9月2日(木)に「第2回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」の開催が決定しました。

今回のセミナーでは「Q6-1 人の利用という視点から、高水敷整備をどのように進めたらよいか、考え方や事例を教えてください」に関連して、川と人・地域の関わりを豊にする水辺整備について考えます。(次ページの案内チラシ参照)

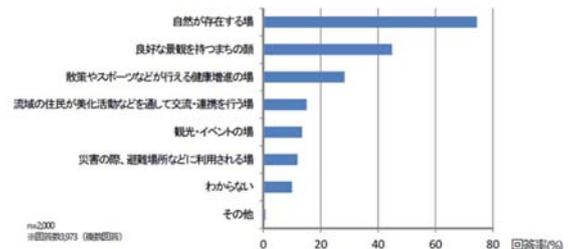


図-1 日本人の河川環境に関する意識アンケート調査結果
(Q6:あなたは、河川に特にどのような役割を求めますか。この中からいくつでもあげてください。)¹⁾



写真-10 堤防から広場、川までが一体的に連続(2016.10)

大河川における多自然川づくり-Q&A形式で理解を深める-Q6-1より

<第2回 ウェブセミナー開催概要>

- 開催日時：令和3年9月2日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェブナー
- プログラム：

- ①「川と人・地域の関わりをもっと豊かに
-大河川の自然と広い空間を活かした魅力的な
水辺整備を考える」

講演者：株式会社吉村伸一流域計画室
代表取締役 吉村 伸一

② 意見交換

- 参加費：無料
- 参加者数：先着500名(事前申込制)
- CPD：1.0単位(土木学会認定)

★参加申込はこちらから

<https://forms.gle/jKCWdBQFbEHbm1bs6>



■大河川における多自然川づくり-Q&A形式で理解を深める-

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題をQuestionとし、これにAnswerとして答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本Q&Aのダウンロードはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/resources/guideline/276.html>

<大河川 Q&A 集の構成>

- 基本編
- 実践編
 - 現況評価と目標設定
 - 多自然川づくりの計画・設計 ←Q6-1 はここ
 - 生態系ネットワーク
 - 維持管理とモニタリング

第2回 どうすれば良い？ 大河川における多自然川づくり 「川と人・地域の関わりをもっと豊かに

— 大河川の自然と広い空間を

活かした魅力的な水辺整備を考える」

2021.9/2 (木)

時間 16:00~17:00
形式 Zoomウェビナー

株式会社吉村伸一流域計画室
代表取締役 **吉村 伸一**

●プログラム

時間	題目	講演者
16:00~	川と人・地域の関わりをもっと豊かに—大河川の自然と広い空間を活かした魅力的な水辺整備を考える	吉村 伸一
16:30~	意見交換	

今回のセミナーでは「Q6-1 人の利用という視点から、高水敷整備をどのように進めたらよいか、考え方や事例を教えてください」に関連して、川と人・地域の関わりを豊にする水辺整備について考えます。

●大河川における多自然川づくりセミナー における目的

本セミナーは、「大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～」を基に、複数回に渡り、河道掘削や樹木管理における多自然川づくりのポイントをQ&A執筆者より解説した上で、セミナー参加者の皆様と意見交換を通じて、大河川における多自然川づくりへの理解を深めることを目的としています。

●大河川における多自然川づくり ～Q&A形式で理解を深める～とは？

本書では、大河川における多自然川づくりを实践するため、現場で直面する課題をQuestionとし、これにAnswerとして答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本Q&Aのダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html

お申し込み方法

下記URLまたはQRコードより、お申し込みください。

<https://forms.gle/jKCWdBQFbEHbm1bs6>



参加無料
先着500名



大河川における多自然川づくり — Q & A 形式で理解を深める —

平成31年3月
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

(令和2年3月一部改訂)



主催 公益財団法人リバーフロント研究所（多自然川づくりサポートセンター）

お問合せ：daikasen2021@rfc.or.jp 担当：吉田・金子

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

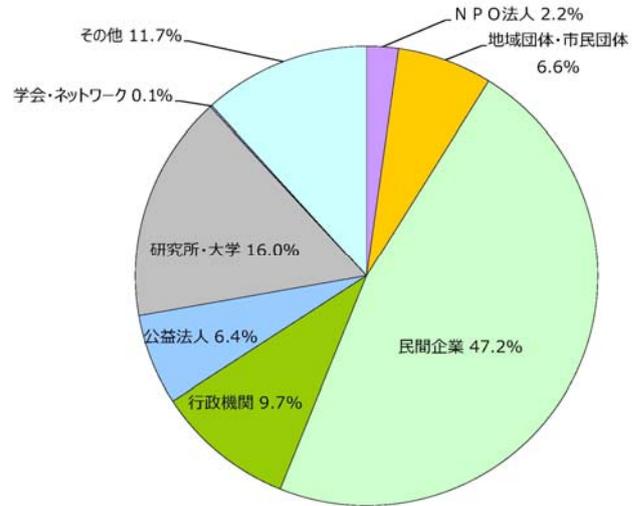
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2021年7月31日時点の個人会員の所属構成
 (個人会員数：822名、団体会員数：61団体)
 ※7月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
 〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>